



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●本体の吊込みを行う場合は、本体の丁番カップが縦枠の丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。本体の落下の原因となります。

■取付けのお願い

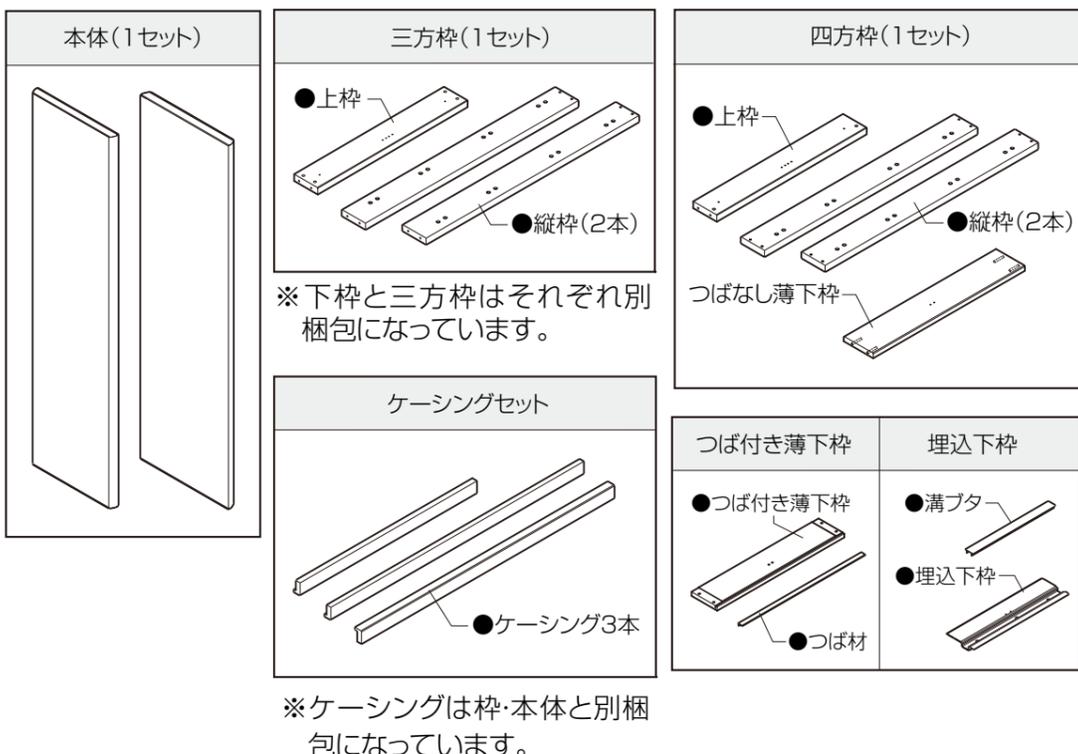
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 床材とツバ付薄沓ずりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 軽量鉄骨に直接取付ける場合は、同梱のねじでは取付けできません。現地にて鉄骨までかかる長さのねじを手配してください。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ（ガムテープ、養生テープなど）を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- 本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
- 丁番3枚吊り、4枚吊りの本体は、最初に中間の丁番を取付け、次に端部の丁番を取付けてください。又、本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

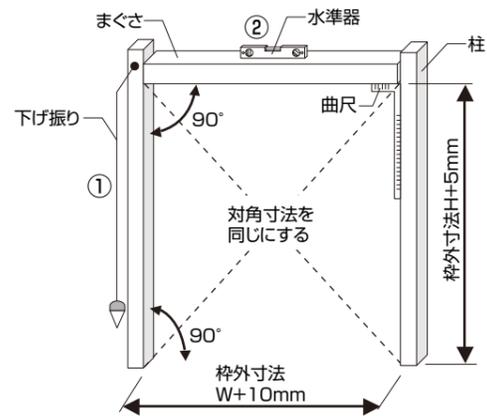
■各部の名称

※枠・本体はそれぞれ別梱包になっています。



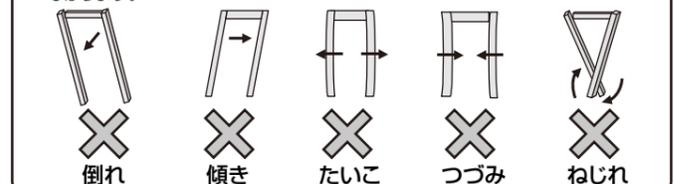
■開口部の作成

- 開口部を作成します。
- ※開口部寸法は下記寸法で作成願います。



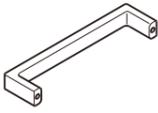
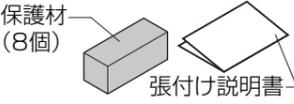
- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



■部品セット一覧

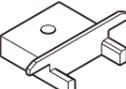
■本体部品セット

部品名称	把手	把手取付けねじ トラス小ねじ M4×35	丁番カップ	保護材セット 保護材 (8個) 張付け説明書
呼称				
0709・0712 0809・0812	2	4	4	1
0718・0818	2	4	6	1
0720・0723 0820・0823 1220・1223	2	4	8	1

■枠部品セット

部品名称	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)		皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (上枠躯体取付け用)	キャップ用ねじ φ3×50 (枠取付け用)	戸当り	ナベタッピンねじ 1種φ3.5×16 (戸当たり取付け用)	ねじキャップ	丁番座	開き戸 ダンパー	開き戸ダンパー用 スペーサー	トラスタッピン ねじφ4×35 (開き戸ダンパー 取付け用)
	3方枠	4方枠									
呼称											
0709・0809	4	8	3	4	2	4	4	4	2	4	4
0712・0812	4	8	3	6	2	4	6	4	2	4	4
0718・0818	4	8	3	6	2	4	6	6	2	4	4
0720・0723 0820・0823	4	8	3	6	2	4	6	8	2	4	4
1220・1223	4	8	4	6	2	4	6	8	4	8	8

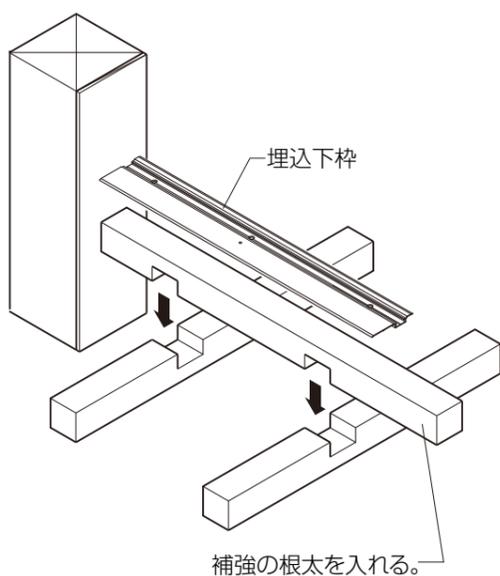
■下枠部品セット

下枠種類	トラスタッピンねじ φ4×25 (薄下枠組立て用)	皿タッピンねじ φ3.5×20 (枠取付け用)	縦枠下部ピース (R/L)	皿タッピンねじ 1種φ4×20 (縦枠下部ピース 取付け用)
ツバ付き薄下枠				
埋込下枠	4	—	—	—
埋込下枠	—	3	2(R/L各1)	2

■床の張り方

1 埋込下枠下地の確認

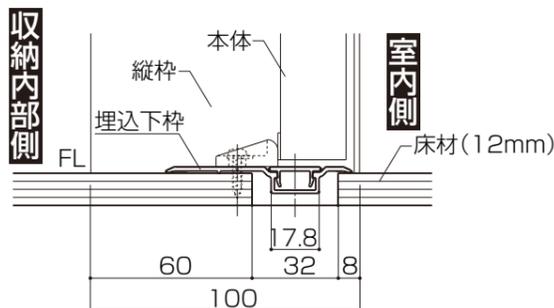
① 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



2 床張り位置(床の張込み)

【埋込下枠を使用する場合】

● 下図の位置に32mm(最小開口25mm)あけて床材を張ってください。

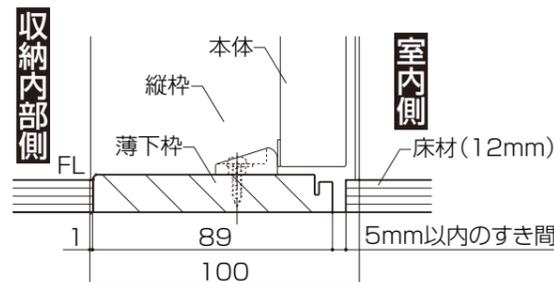


お願い

※ 床材は必ず図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

【つば付き薄下枠を使用する場合】

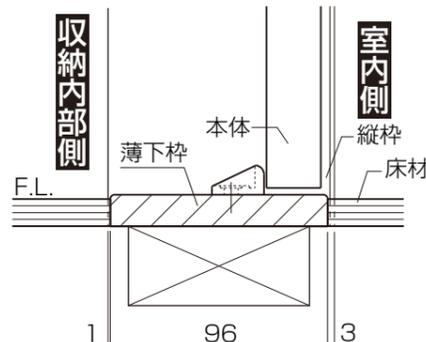
● 枠の取付け後、下図のように床材を張ってください。



お願い

※ 床材と薄下枠のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあげないでください。

【つばなし薄下枠を使用する場合】

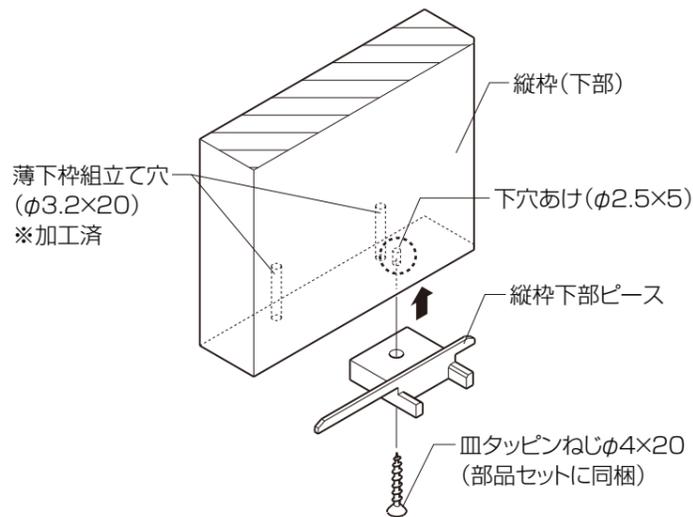


■取付け詳細

■枠の組立て

【埋込下枠を使用する場合】

- 縦枠に縦枠下部ピースをねじ(皿タッピンねじφ4×20)で固定します。縦枠に下穴(φ2.5×5)をあけるときは、取付け説明書に載せてある型紙を使用して位置出しをすると簡単にあけることができます。
- ※すでに加工されている薄下枠組立て穴(φ3.2×20)とは異なりますので、ご注意ください。

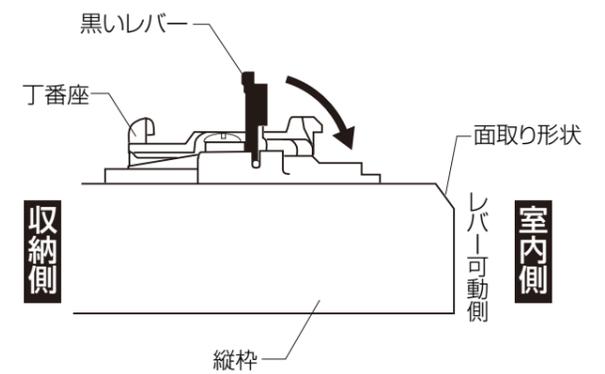
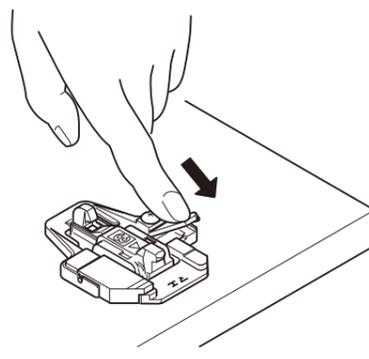
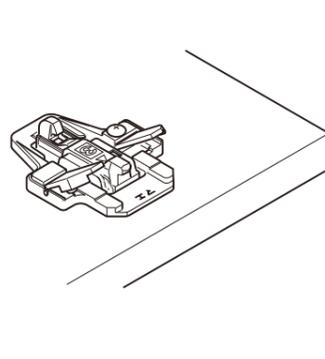
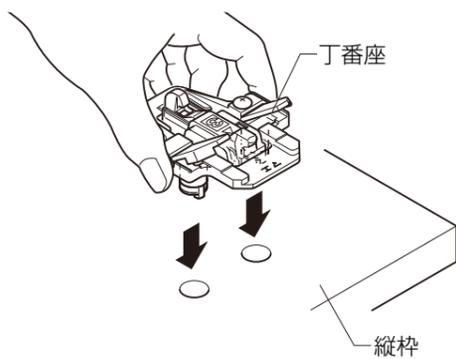


- ①縦枠に丁番座を取付けます。
縦枠に丁番座を差込みます。

丁番座と縦枠の間にすき間がないことを確認してください。

黒いレバーをおろして丁番座を固定します。

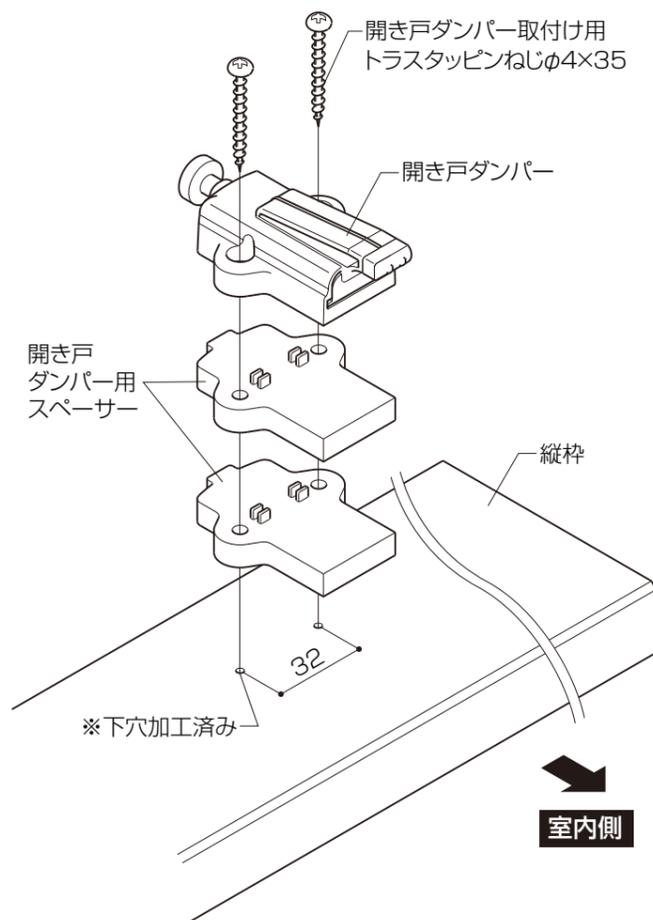
※丁番座の向きは下図を参照し間違いのないようにしてください。



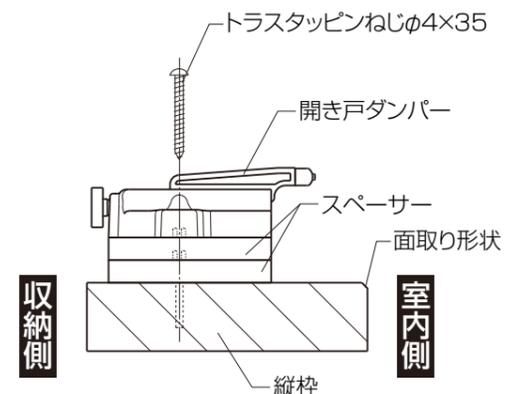
- ②縦枠に開き戸ダンパーおよびスペーサーを取付けます。(※下穴加工済み)
開き戸ダンパー1個につきスペーサー2個を重ねて、同梱のねじ(トラスタッピンねじφ4×35)で縦枠に固定します。

お願い

※開き戸ダンパーの取付けには、電動ドライバーを使用しないでください。ダンパーが変形し、作動不良を起こす可能性があります。

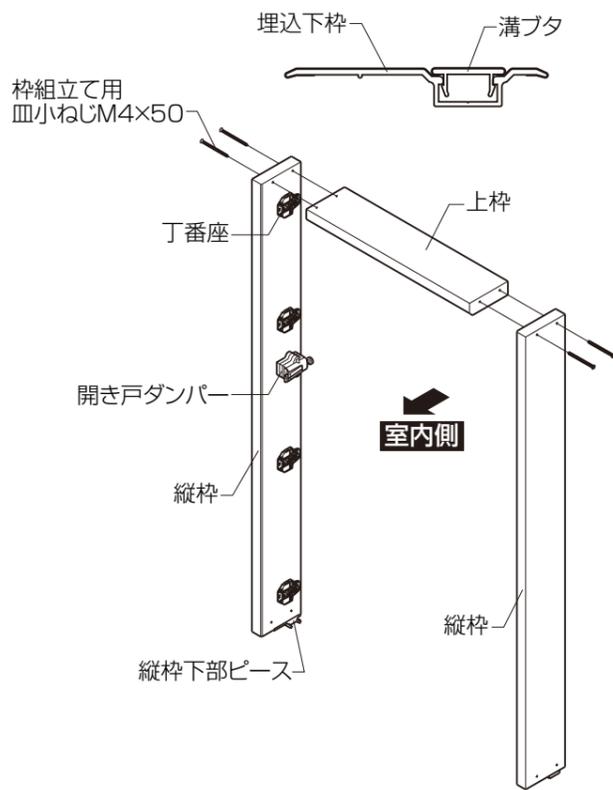


※開き戸ダンパーおよびスペーサーの向きは、下図を参照し間違いのないようにしてください。

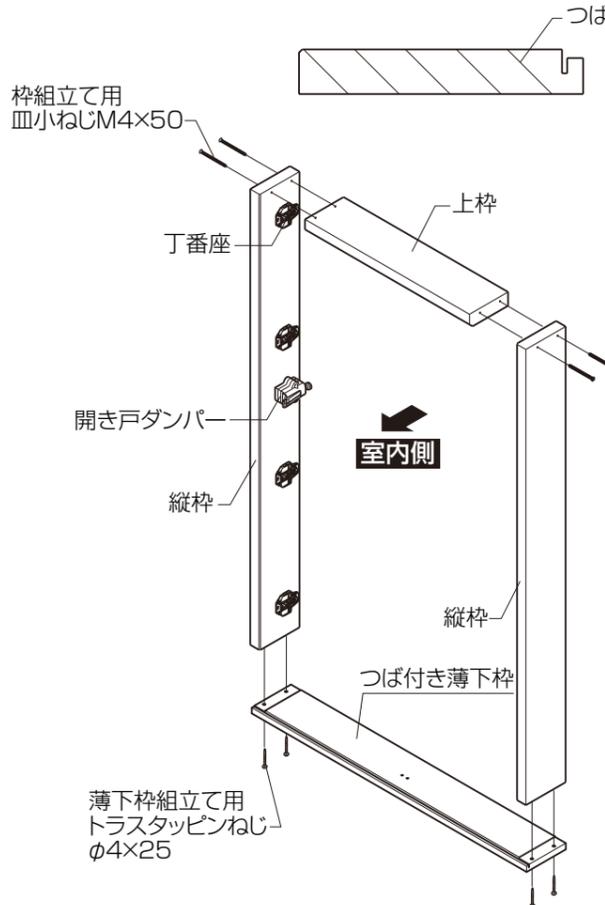


③右図のように各部材を組合せ、
同梱のねじで固定します。

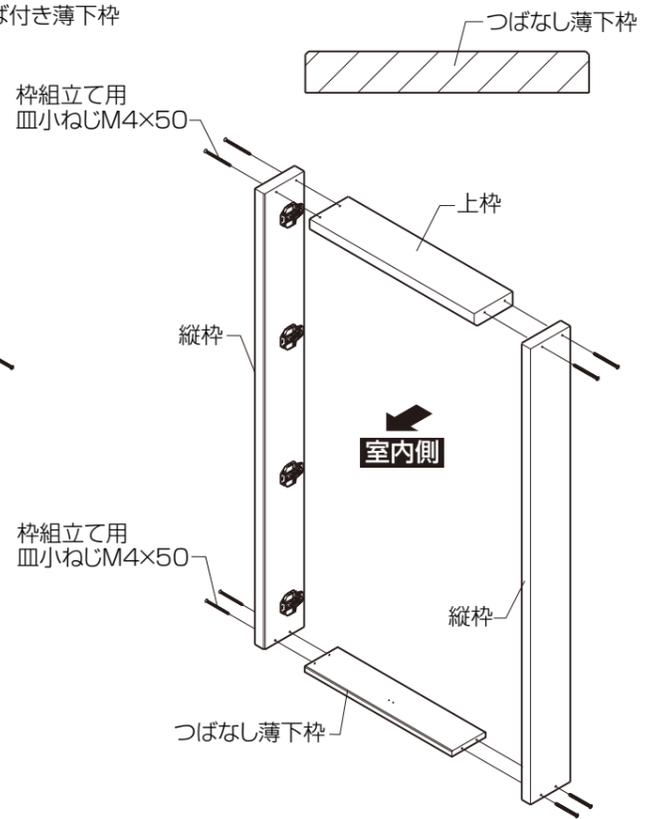
【埋込下枠を使用する場合】



【つば付き薄下枠を使用する場合】

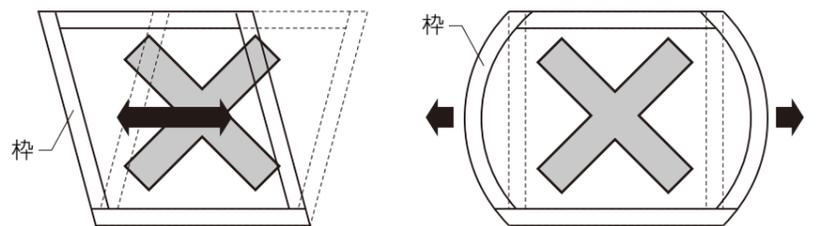


【つばなし薄下枠を使用する場合】



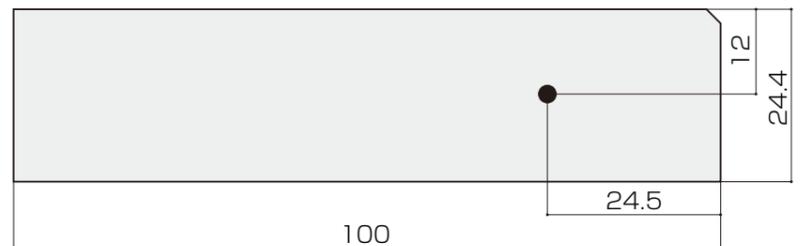
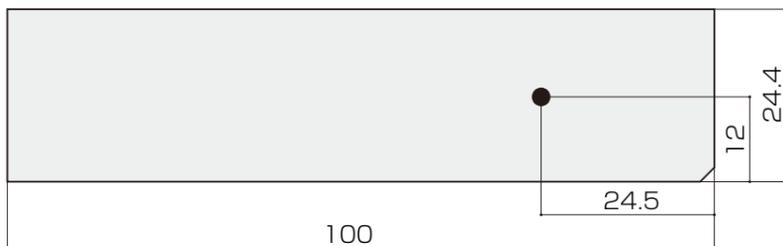
枠組立て上のお願い

- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。

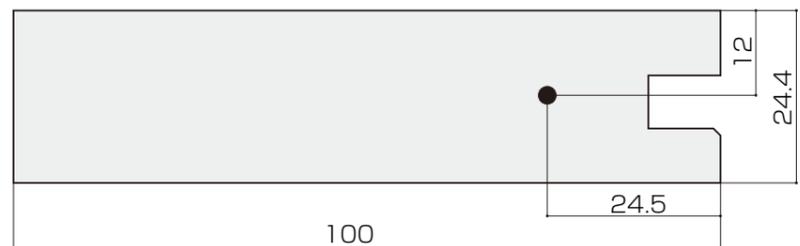
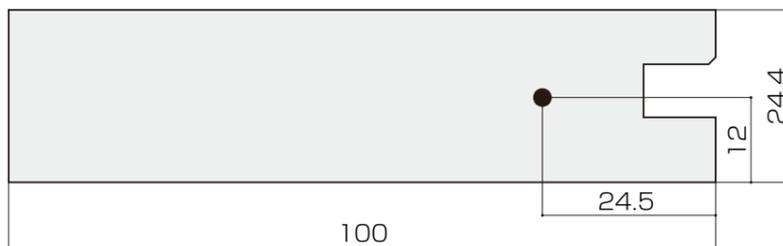


■縦枠下部ピース取付け穴加工用型紙

●ノンケーシング縦枠(下穴φ2.5×5)

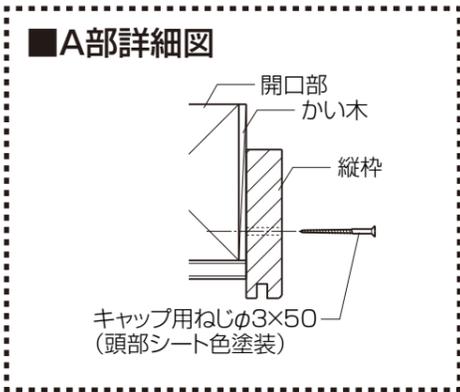


●ケーシング縦枠(下穴φ2.5×5)

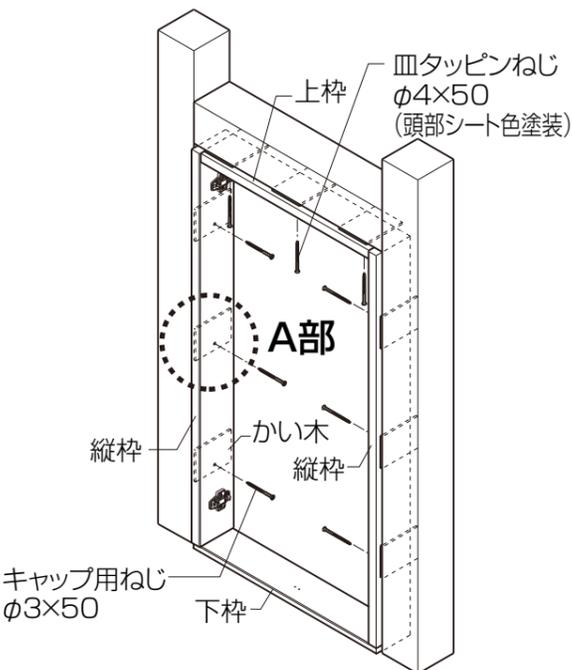


2 枠の取付け (つば付き・つばなし薄下枠共通)

組立てた枠を、開口部に取り付けます。
※取付けねじと同じピッチになるよう
にかい木を入れます。

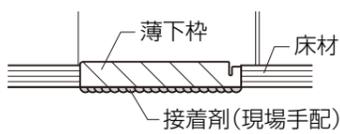


- ① 組み立てた枠を開口に取り付けます。
 - ② 取り付けネジと同じピッチになるようにかい木を入れます。
 - ③ 枠の水平・垂直を必ず確認してください。(開閉不具合の原因になります。)
 - ④ 同梱のネジで固定してください。
- ※縦枠：キャップ用ネジφ3×50
※上枠：皿タッピンねじφ4×50
(頭部シート色塗装)

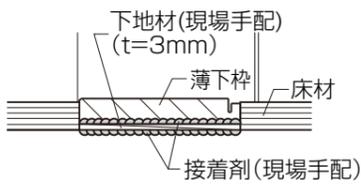


〔薄下枠の場合〕

●床材厚さ 12mm
※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。

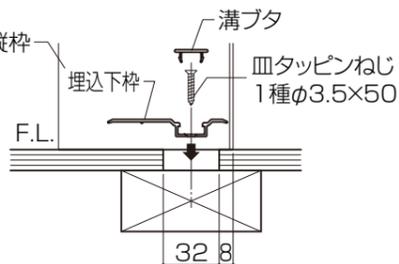


●床材厚さ 15mm
※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



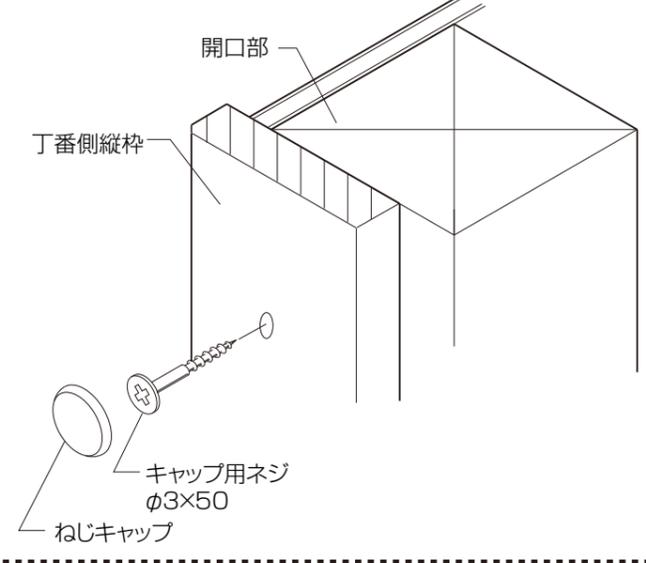
〔埋込下枠の場合〕

●埋込下枠を縦枠下部ピースにはめ込み、縦枠室内側端部から3mmの位置にねじ止めし、溝ブタをはめ込みます。



ねじキャップ取付け【A部詳細】

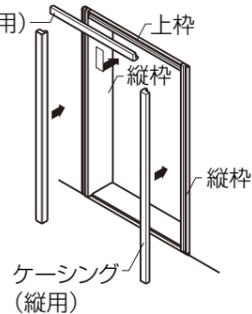
丁番側枠の取付けネジ頭(φ3×50)へ、ねじキャップを付けてください。



3 ケーシングの取付け(ケーシングタイプのみ)

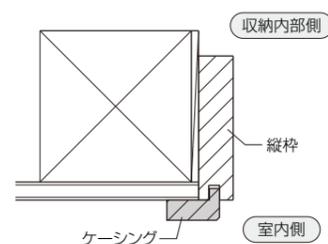
※壁材・床材を仕上げた後からケーシングを取付けてください。

- ① 別梱のケーシング(上用)を現場寸法に合わせて切断します。
 - ② 枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
 - ③ ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤を塗布し、ケーシングを固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



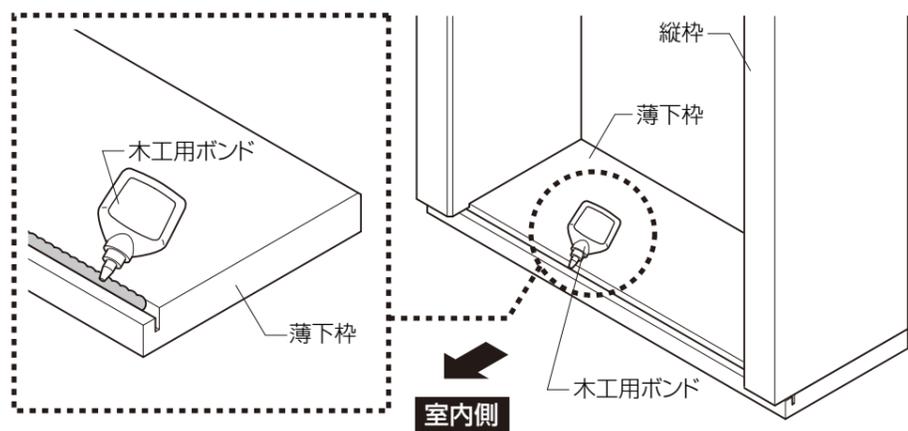
●ケーシングタイプの取付け

組立てた枠を開口部に入れます。次に縦枠にケーシングを差込み、枠の固定位置を確認します。
※ケーシングの足は設定が限られており、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



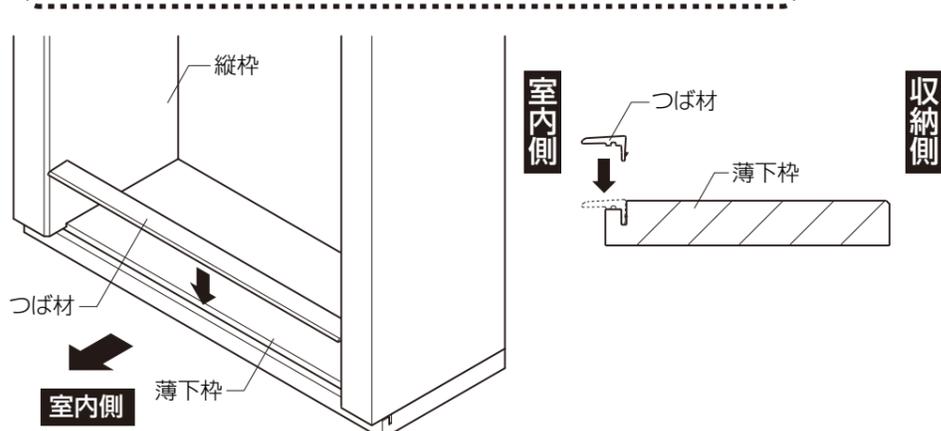
■つば材の取付け(つば付き薄下枠を使用する場合のみ)

- ① 現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ② 薄下枠の溝に木工用ボンド(現場手配)をつけてください。



- ③ つば材を溝に手ではめこんでください。

お願い
※ハンマーなどで強くたたき込まないでください。

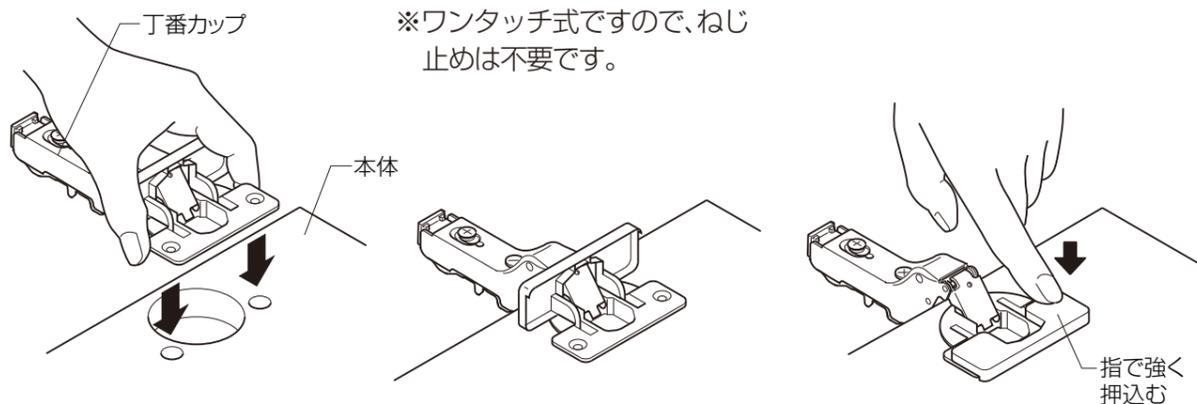


3 本体の吊込み

① 丁番カップの取付け

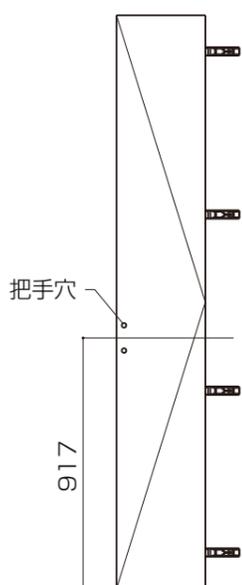
丁番カップのカバーを90°に開いて、本体の丁番カップ取付け穴に丁番カップを差込んでください。
※ワンタッチ式ですので、ねじ止めは不要です。

本体と丁番カップにすき間がないことを確認したら「パチッ」というまで強く押込んでください。



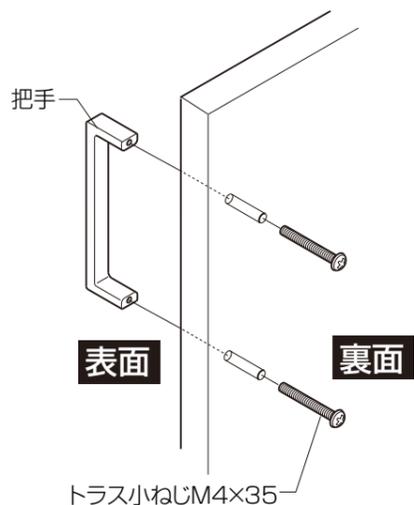
② 本体の左右勝手の確認

● 本体の下端より上下把手穴中心までの寸法が917mmになります。(H09は756mm)



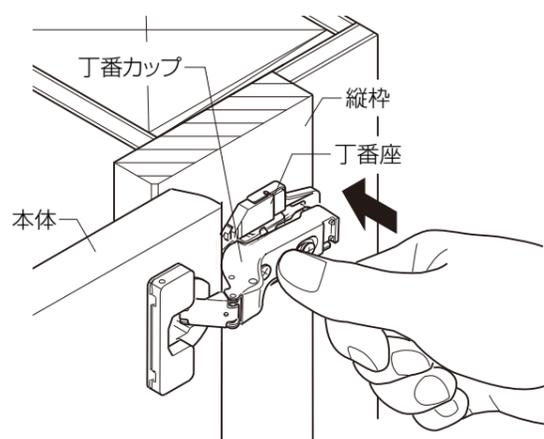
③ 把手の取付け

※ 把手セットは本体に同梱されています。

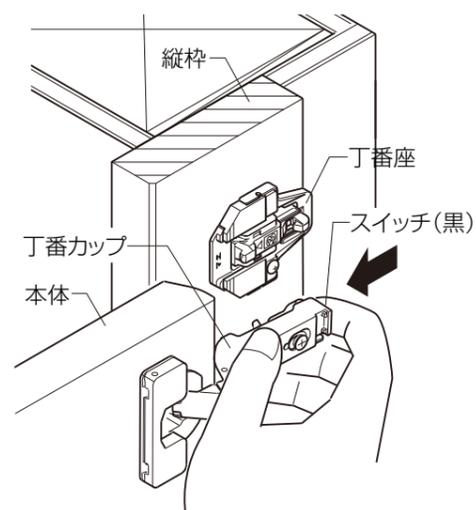


④ 本体の吊込み条件

● 本体の丁番カップを縦枠の丁番座にセットし、上から押込むだけで簡単にセットできます。



● 取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押込むと外れます。

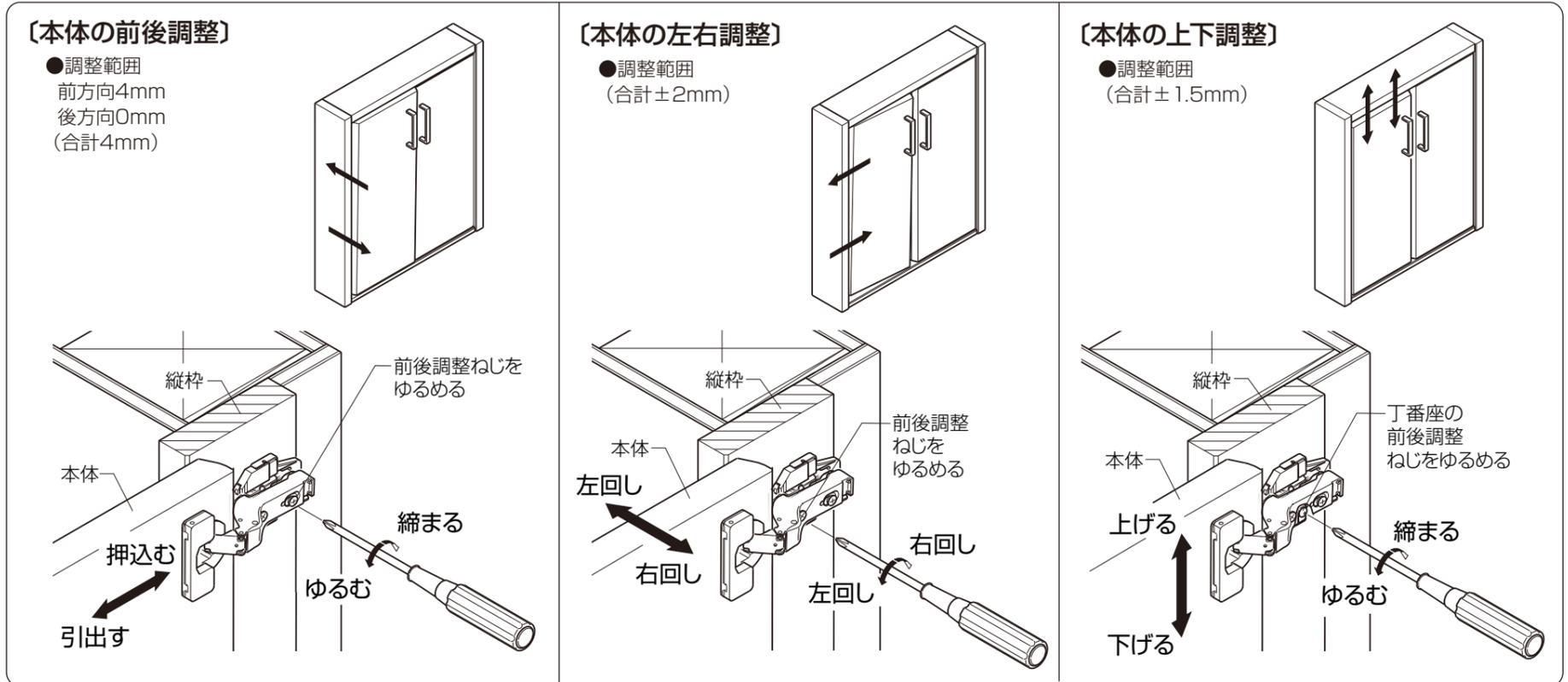


▲ 注意

● 本体の吊込みを行う場合は、本体の丁番カップが縦枠の丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。本体の落下の原因となります。

※ H18(3枚吊り)、H20、H23(4枚吊り)の場合、最初に中間の丁番を取付けてください。
※ 本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

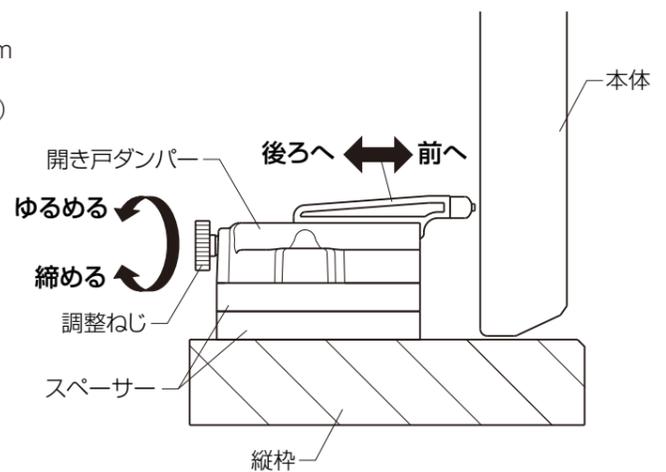
5 本体の建付け調整



6 開き戸ダンパーの調整

- ※開き戸ダンパーの調整は、本体が閉まりきらない場合に実施してください。(閉まりきらない場合、ダンパーを後へ調整します。)
- 開き戸ダンパー後部の調整ねじを手でまわし、調整してください。
- ※調整ねじを締めると前へ、ゆるめると後へ動きます。

- 調整範囲
前方向1.5mm
後方向2mm
(合計3.5mm)



お願い

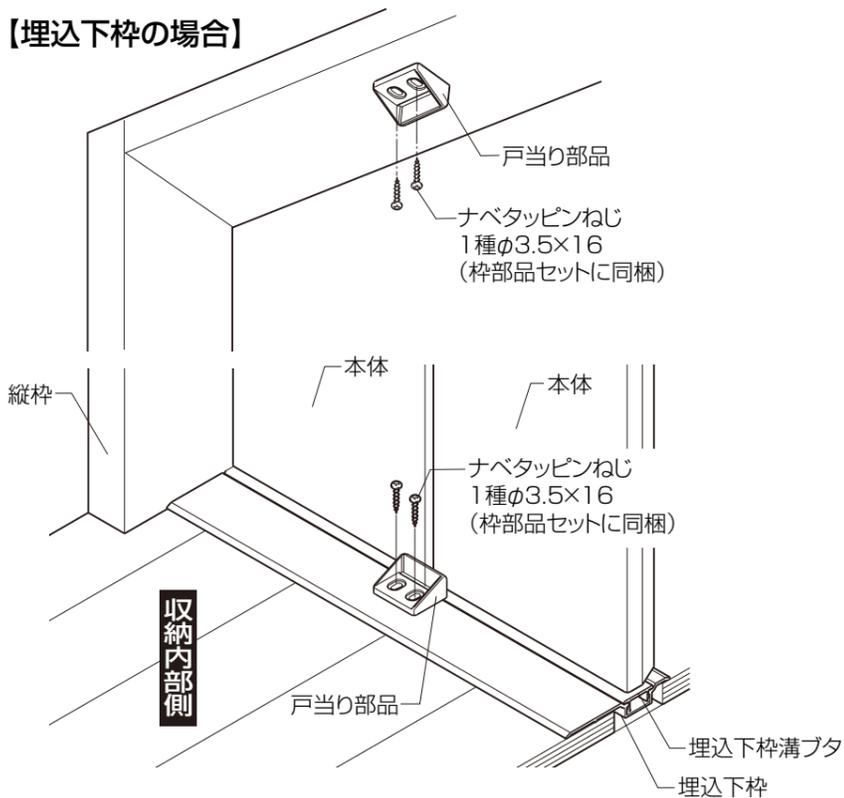
※開き戸ダンパーを前に移動しすぎると、本体が閉まりきらなくなることがありますのでご注意ください。

※調整ねじは必ず手でまわしてください。又、ゆるめる方向に範囲をこえて、無理に調整ねじをまわさないでください。調整ねじが破損するおそれがあります。

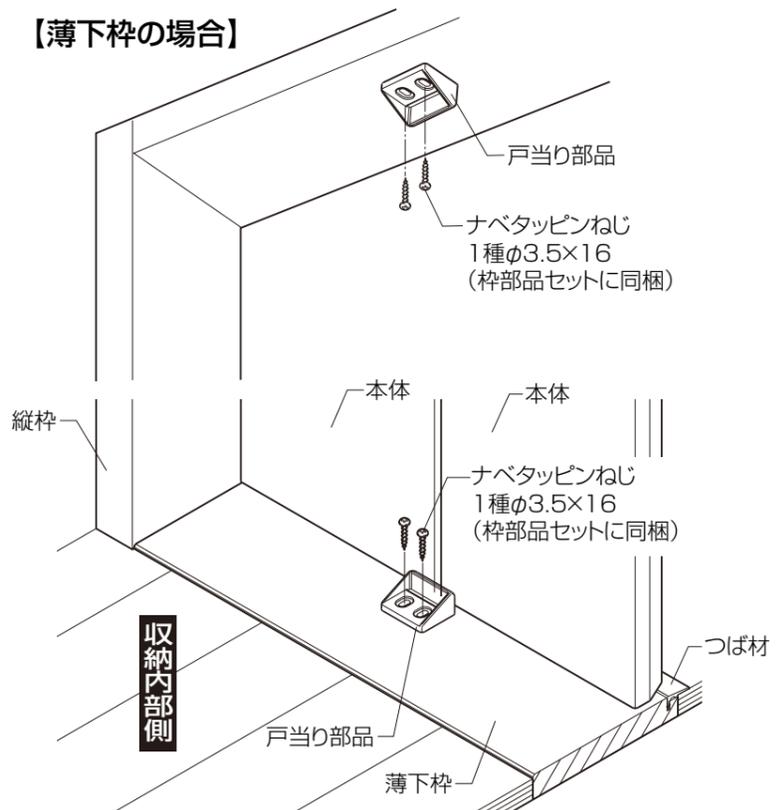
7 下部戸当りの取付け(薄下枠共通)

- ①本体を枠に吊込み、建付け調整を行った後、戸当り部品をナベタッピンねじ1種φ3.5×16(枠部品セットに同梱)で固定します。

〔埋込下枠の場合〕

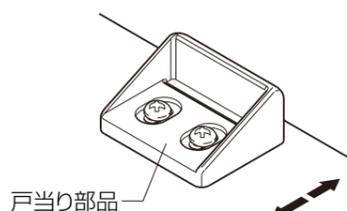


〔薄下枠の場合〕



8 戸当り部品の調整

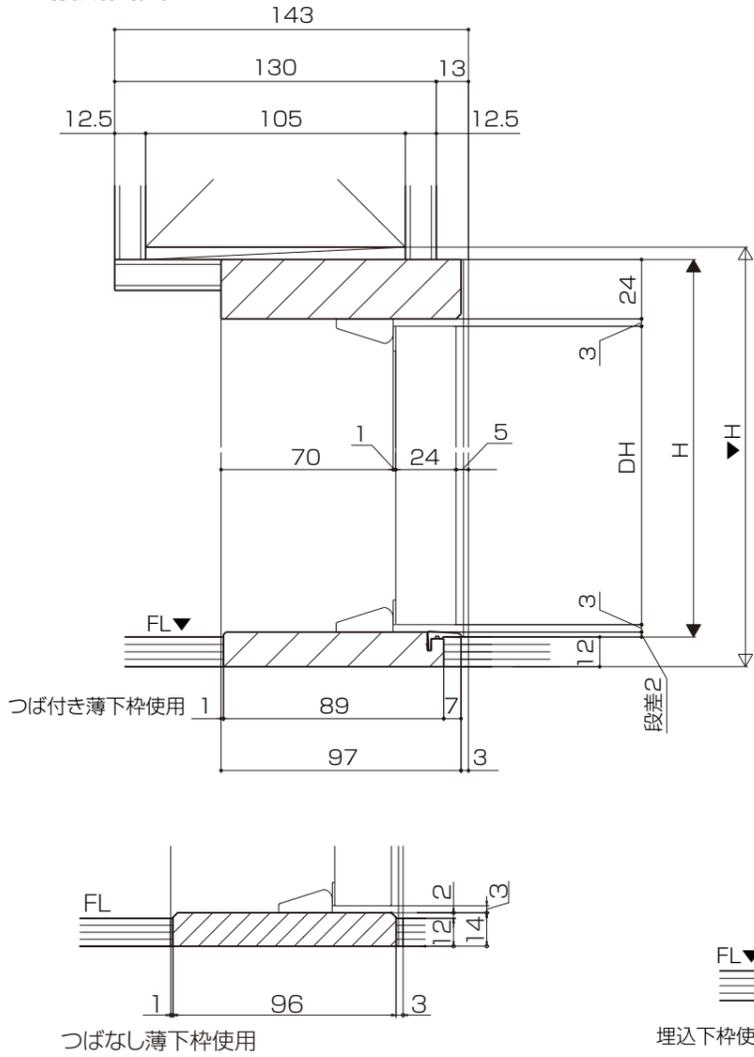
- ①本体の建付け調整を行った後、本体を閉めて戸当り部品とあたっていることを確認してください。
- ※本体と戸当り部品があたらない場合は、戸当り部品取付けねじをゆるめ調整してください。(調整範囲:奥行き方向に3mm)



■納まり図

■クローゼット開き戸ユニット(両開き) ノンケーシング

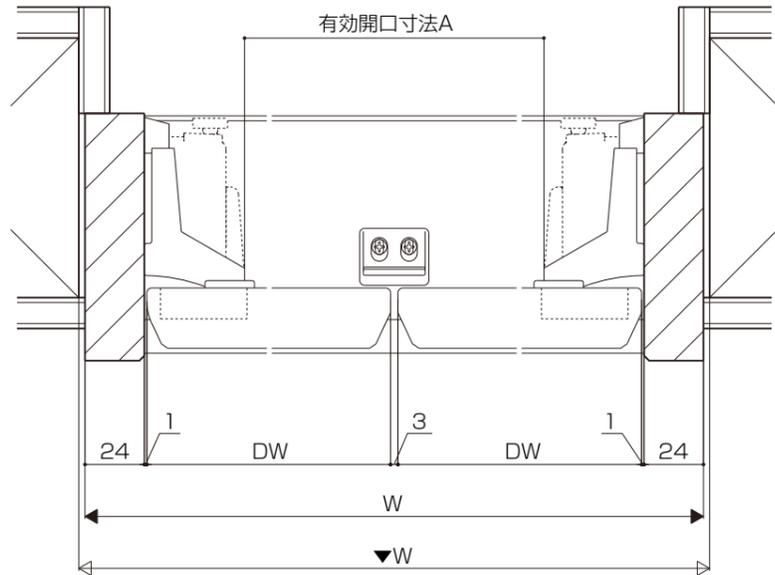
●縦断面図



■両開き戸

基本 寸法 (mm)	W呼称	07	08M	12		
	W(DW)	734(340.5)	824(385.5)	1183(565)		
	H呼称	09	12	18	20	23
	H(DH)	878(846)	1178(1146)	1823(1791)	2023(1991)	2306(2274)

●横断面図

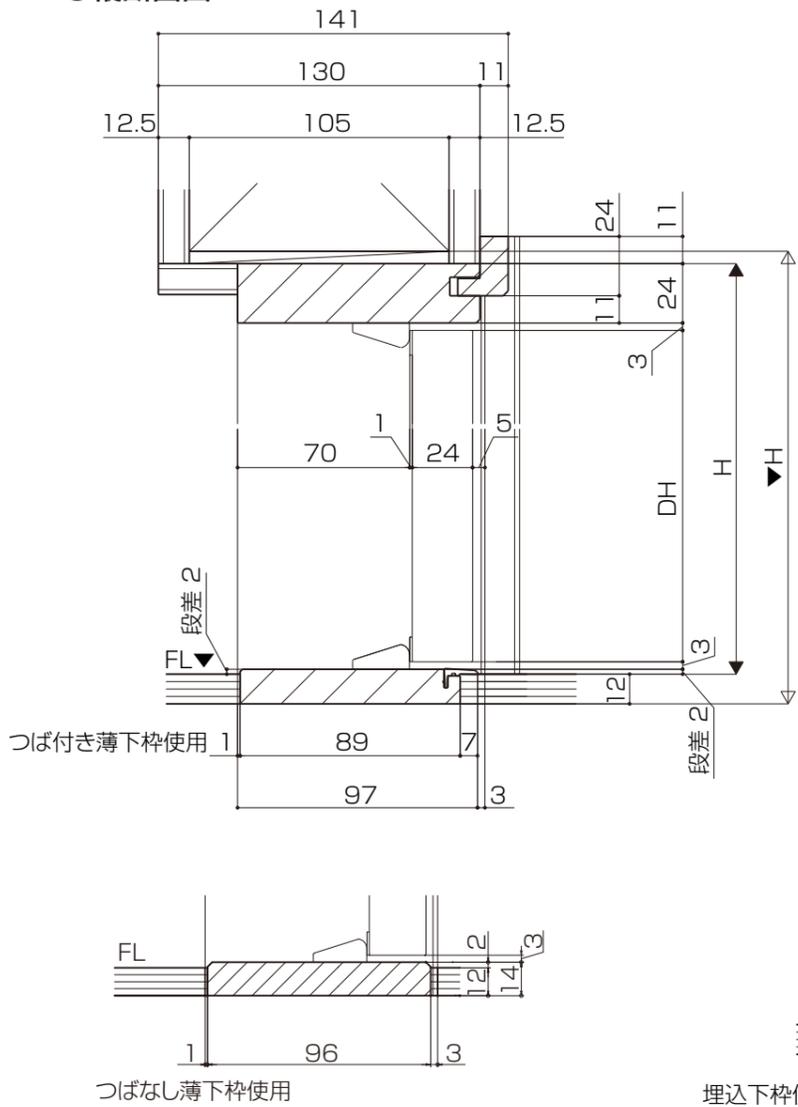


■有効開口寸法A

W呼称(枠外寸法)	A寸法
W07(734)	605
W08M(824)	695
W12(1183)	1054

■クローゼット開き戸ユニット(両開き) ケーシング付

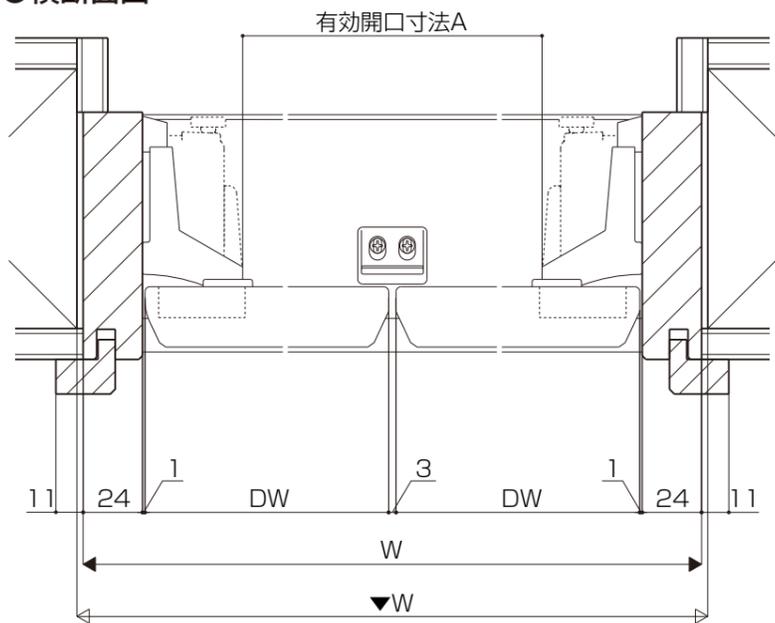
●縦断面図



■両開き戸

基本 寸法 (mm)	W呼称	07	08M	12		
	W(DW)	734(340.5)	824(385.5)	1183(565)		
	H呼称	09	12	18	20	23
	H(DH)	878(846)	1178(1146)	1823(1791)	2023(1991)	2306(2274)

●横断面図



■有効開口寸法A

W呼称(枠外寸法)	A寸法
W07(734)	605
W08M(824)	695
W12(1183)	1054